



見附市立見附小学校 学校だより

「自ら学び 進んで鍛え 共に伸びる見小の子」

みしよ

No. 368

令和7年11月28日（金）発行

〒954-0052

見附市学校町1丁目3番89号

Tel 0258 (62) 0141



大人がそっと後押しする

校長 後藤 正美

私事ですが、TV番組「王様のブランチ」の中にある「BOOK コーナー」という番組を時々見ます。本が紹介されるのですが、読みたい気持ちが高まり、実際に書店で紹介された本を探すこともあります。こうした本に関わる時間は、デジタル社会だからこそ一層必要な時代だと感じています。

さて、今月は見附小でも読書旬間が行われました。図書館の方によるブックトーク（写真左）、おとぎの国の皆さんや職員による読み聞かせ（写真右）など、いつも以上に本に親しむことができたと思います。以前、AIを用いて「小学校の読書活動で現在課題だと思われることは何ですか。」と調べてみました。すると、実に多くの指摘が出てきたのです。一部ですが紹介します。

- ・学年が上がるにつれて、読書から離れてしまう傾向が見られる。
- ・文字を読むのが面倒で、黙読のできない子供がいる。
- ・特定のジャンルに好みがあり、基本的な読書力に課題を抱える子供がいる。

本を読む習慣がないという子供には、改めて大人による働き掛けが必要だと思うのです。しかし、「本はためになるから読みなさい。」と言われて、本好きになることはありません。むしろ逆効果でしょう。

そこで効果のあるのが、「読み聞かせ」です。おとぎの国の皆さんの読み聞かせを、廊下からこっそり聞いたことがあります。感激したのはその読み方です。実に「プロ」なのです。本の世界に浸っている子供たちの姿に、嬉しくなりました。

本を読む習慣がない子供に読み聞かせをするのは、ちょうど自転車に乗れない子供を後ろから押してやることに似ていると言われます。大人が後ろからそっと後押ししてあげることで、いつか独り立ちし、自然と自分で本を読むようになると思うのです。本を手を持つことは、アナログのよさを体感させる絶好の時間。「小学校の頃に〇〇という本がおもしろくて何度も読んだよ。」のように、家族の方が印象に残っている本の話をするのもいいですね。

大量のネット情報を目で追うだけでは、「行間を読む」という言葉も、やがては死語になりかねません。言葉だけじゃなく、その裏にある本当の気持ちを慮る日本人の良さは、本によって培われてきます。大人の力で、そっと後押しをしていきましょう。